



2014年5月 第12巻第5号

### かく語りき—聖人の言葉

「利己的な動機など一切なく他者のために働く者は、実は自身に対して善を為しているのだ」

(シュリー・ラーマクリシュナ)

「人の子は仕えられるためではなく仕えるために、また、多くの人々の身代金として自分の命を捧げるために来たのである」

(イエス・キリスト—マルコによる福音書 10:45)

### 今月の目次

- かく語りき—聖人の言葉
- 2014年7月の予定
- スワームィー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150周年記念セミナー・展示会  
(2014年3月26日 東京・インド大使館) セミナーでのスピーチ  
「スワームィー・ヴィヴェーカーナンダが世界の哲学および宗教観念に与え

た影響

現状と将来の展望」 スワームィー・ティヤガーナンダ

- スワームィー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150周年記念セミナー・展示会

(2014年3月26日 東京・インド大使館) セミナーでのスピーチ

「ヴィヴェーカーナンダのヒューマニズム」 平野久仁子博士

- 2014年4月の返子例会
- 忘れられない物語
- 今月の思想

### 今月の予定

- 生誕日

グル・プルニマ 7月12日(土)

スワームィー・ラーマクリシュナーナンダ 7月24日(木)

- 協会の行事

7月6日(日)、13日(日)、20日(日)、27日(日) 14:00~15:30

ハタ・ヨーガ・クラス

場所：新館アネックス

お問い合わせ：逗子協会 046-873-0428

\*体験レッスンもできます。詳細は協会ウェブサイトをご覧ください。

(日程は変更になることもあります)

7月25日(金)

ホームレス・ナーラーヤナへの奉仕活動

現地でのお食事配布など。

お問い合わせ：佐藤 090-6544-9304

7月26日(土) 13:30~17:00

関西地区講話

場所：大阪研修センター

内容：「バガヴァッド・ギーターとウパニシャッドを学ぶ」

\*詳細は協会ウェブサイト「特別プログラム」をご覧ください。

## スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150 周年記念セミナー・展示会

(2014年3月26日 東京・インド大使館) セミナーでのスピーチ

「スワミー・ヴィヴェーカーナンダが世界の哲学および宗教観念に与えた影響・現状と将来の展望」

スワミー・ティヤガーナンダ

本日は皆様にお会いでき、またスワミー・メーダサーナンダジ・マハーラージのお招きを頂き、大変光栄です。今回の私の日本の初訪問に際して、

スワミー・ヴィヴェーカーナンダが岡倉覚三に送った手紙の一節を思い出しました。「私にとって日本は夢である。あまりに美しく、その夢は、見るものの生涯にわたってつきまとう」今年、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの生誕 150 周年であり、世界中のヴェーダンタセンターのみならず、高校や大学でも記念式典が行われています。



スワミー・ヴィヴェーカーナンダが思想の世界に与えた影響についてお話したいと思います。影響には様々な種類がありますが、その一つは、物質が衝突するとき起こる、物質的影響です。衛星が地球に衝突する可能性はほとんど皆無ですが、実際に起きた場合の危険性と破壊の規模は非常に大きいものがあります。歴史上で物質的な影響を与えた事象には、1945年の長崎と広島への原子爆弾の投下があります。この爆弾による多くの死者と破壊は私達の集合意識に忘れられない記憶を残しました。

もう一つは、哲学や宗教といった、思

想の世界に与える影響です。この影響は、洞察力や建設的な行動を促進し、それが人間性に新しい命を吹き込み、人間の意識をより高いレベルへと引き上げます。このような慈悲深い影響を与えた人物は、しばしば称賛され、聖人・預言者だと崇拜されることがあります。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、そのような悟りに達した人々の一人でした。彼の人生と言葉は、彼が生きた時代の世界に永続的な影響を残し、その影響は彼の生誕から 150 年経った現在でも続いています。

スワミーが与えた影響を適切に理解するには、過去に遡ってどのように全てが始まったのかを知る必要があります。ラーマクリシュナという男の子は、ベンガルの小村で生まれ育ちました。この子は神の愛の虜となり、不思議な驚くべき経験をし始めました。彼は、コルカタのダクシネーシュワル・カーリー寺院で司祭となった頃から、霊的な実践を熱心に行うようになりました。彼の神秘体験は、古代の聖典に書かれていることが裏付けられただけでなく、それ以上のことをも語りました。そのころ、満開の蓮の花に蜂が群がるように、シュリー・ラーマクリシュナのもとへ、神を真摯に探し求める若者達が集まり始めました。彼らは、スワミー・ヴィヴェーカーナンダがそのリーダーを務める、ラーマクリシュナ僧団の第一世代の僧となりました。

スワミーは青年期のほとんどをインドの放浪に費やしました。彼はなるべく目立たないように努力していましたが、彼ほどの高い能力と精神性を持つ人物が世間の注目から逃れることは難しかったのです。どこにおいても、彼は道徳と精神的価値に基づく生活を送るよう人々に刺激を与えました。スワミーが 1893 年シカゴで行われた世界宗教会議への代表となった時、一夜にして彼は世間の評判となりました。彼が持つ精神性の光を隠すことはもはや不可能となったのです。

しかし、大騒ぎというものには長続きしません。スワミーの場合、西洋世界において彼が起こした初期の熱狂と興奮は数年の間に廃れ、ほとんど消え去ったかのようでした。しかし現在の世界を見ると、そうではないことを私達は知っています。スワミーが蒔いた精神の種は世界各地で芽吹いています。彼が世界に与えた影響は、すでに世界において浸透しているため、世界の変革に彼がどれほど貢献したかを知るのには、それを鋭く観察しようとする人だけなのです。

スワミーが、インドが世界の思想へ及ぼす影響を述べた時、彼自身が世界に与える影響を述べていたのかもしれませんが。

「私達は世界に向けて何度もメッセ

ージを送ったが、徐々に静かにそのメッセージは気づかれなくなった。インド思想の特徴の一つはその静けさと落ち着きである。優しく降る露が目に見えず耳に聞こえないにもかかわらず美しいバラを満開にさせるように、インドは思想の世界で貢献をした。静かに、人に気づかれないにも関わらず強力な影響をもち、思想世界に革命をもたらした。しかし、誰もいつそれが起きたのか知らないのである。」

これがまさしくスワミーが思想世界に与えた影響です。彼のアイルランド人の弟子であるニヴェディタは、100年前に深い予言を残しました。「スワミーが亡くなった後、彼の業績が忘れられたかのように、長い静寂が始まるだろう。しかし150年から200年後、突然に、彼が西洋世界を大きく変えたことが理解されるだろう。」今日、私達はこの予言が真実であったことを知っています。

スワミー・ヴィヴェーカーナンダのどのような思想が現代の宗教的意識に深い印象を与えたのでしょうか？多くの中で、私は5つ挙げたいと思います。スワミーの神の精神、精神の革命、宗教間の調和、グローバル化、そして愛国心に関する思想です。それぞれについてこれから述べたいと思います。

## 人間の精神の素晴らしさ

スワミーは、人間の精神力の素晴らしさを絶えず強調していました。人間が抱える問題は、肉体的、精神的、感情的、理知的な弱さに起因するものであるとし、肉体だけではなく精神力の鍛錬も奨励していました。また、人は『鉄の筋肉』と『鋼の精神』を兼ね備えるよう努力すべきだ、とも語っていました。

他の優れた宗教指導者達と同様に、スワミーは人々に道徳的かつ倫理的に生きることの重要性と、神への深い信仰に満ちた人生を生きるよう説きました。歴史上、道徳的・宗教的勇気の大切さを説き、また優れた模範を示した者は多くいました。しかし、スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、一人一人の内なる『アートマン』、すなわち、『真我』、を根源とする精神的勇気的重要性に目を向けるという偉大な功績を残したのです。

『アートマン』を根源とする精神的勇気、という概念は決して知られていなかったわけではありません。『アートマン』の開示こそがヴェーダーンタ哲学の核となる部分です。しかし、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが、『アートマン』は人間の肉体や心という物理的な層によって深部に閉じ込められているのではなく、人間の力や善良さ、純潔の源となっている、と指摘するまでは長きにわたってアートマンの無常

性や、精神解放論ばかりが盛んに論じられてきました。スワーマーが『アートマン』について述べた力強いメッセージは今も私たちに希望を与えてくれます。

「人は、その出自、肉体的な強さ・弱さに関わらず、誰もが偉大かつ善良な人間になれる無限の可能性と力を秘めた『無限の魂』を持っている、ということに自覚すべきだ。魂の一つ一つに、『目覚めよ、目標を遂げるまで立ち止まるな、自身は弱い存在である、という暗示から覚めよ』、と呼びかけようではないか。真の弱者などいないのだ。内なる魂には無限の可能性、能力、知識がある。暗示を振り払い、内在する神を称えよ。彼を拒絶してはならない。覚醒した魂の本質を理解すれば、人は様々な素晴らしいことを達成できるだろう。」

男女間不平等の問題は、フェミニズム運動が盛んになった19世紀以前から長きにわたり存在していました。女性の政治的、経済的な権利や平等な教育機会を確保するのは容易なことではなく、まだ多くの課題が残されています。

スワーマー・ヴィヴェーカーナンダは、ヴェーダーンタ派哲学の観点から女性達が直面する問題に注目しました。その上でスワーマーは、性差別は男女間問わず同じ魂が宿るという根本的真実を

否定するものだ、と指摘しました。

『女性の権利に関する問題』について意見を求められたスワーマーは、「私は女性ではない。女性の権利問題について、私に尋ねるあなたは女性だろうか？当事者以外の者が話し合っても意味はない。女性達を信じ、任せるのだ。きっと、自ら解決策を見出すだろう」と述べました。スワーマーの人生から学ぼうとする人達には、「性差別の問題がなくなるまでは、心が休まることはない。アートマンに性別があるだろうか？男女という器を取り除けば、アートマンしか残らない。今こそ、肉体的特徴に基づいた区別をやめなければならないのだ」という、スワーマーの訴えが聞こえていることでしょう。

## 宗教間の調和

スワーマー・ヴィヴェーカーナンダは、宗教における必要要素と不必要要素の観念についても偉大な功績を残しました。頻繁に引用されるスワーマーの言葉に次のようなものがあります。

「魂の一つ一つが神聖な存在である。私達は、その可能性を外的・内的要素を制御し、具現化することを目指しているのだ。具現化の方法は、労働や信仰を通して、また、哲学として研究する事等いく通りもある。ひとつの方法を突き詰めて目標を達成しようとする

か、複数を組み合わせるかは自由だ。そして、魂の持つ可能性を具現化することこそが宗教の存在意義である。宗教教義や儀式、書物や寺院などは、二次的な意味しか持たない。」

スワミーのこのような思想は、インドで発達した宗教のみならず、他の宗教からも共感を得ることでしょう。宗教における必要・不必要要素が何であるかを特定しようとする者もいますが、いずれにせよ多くの宗教家が、宗教には不可欠要素とそうでない要素が存在することを認識しています。スワミーが示した共通認識は、これまで存在しなかった異なる宗教が共通項を見出す土壌を作り出し、宗教間の調和を容易にしているのです。

## 精神的深化

人間と神が個々の存在であるとする二元論的な考え方と、人間と神の真髄は同一であるとする非二元論的な考え方があります。その中間に、人間は、人間より大きな神という存在の一部であるとする見方があります。この問題に関する議論は終わりが無いように見えたが、ヴィヴェーカーナンダが登場し、存在するすべての見解が真実であると指摘しました。「我々は誤りから真実へと旅しているのではなく、真実から真実へと旅している。より低い真実からより高い真実へ」。

ラーマクリシュナの弟子としてその教えを学んだスワミーは、「愛とは一つになることだ」と指摘しました。最初、神は遠くて怖れ多い存在であるが、心の中で愛が育つと、人間は神へ近くなり、神との偉大な強い結びつきや温かな絆を感じ、自分が神の一部であると感じるようになります。魂と愛はもはや二つの独立した存在ではなくなり、ひとつになる、スワミーはこう言ったのです。

「すべての宗教は三つの段階を経ている。まず、私たちは神を遠くから眺める。そして神に近づき、神の遍在を信じることで神の中で暮らすようになる。最後に、自分たちが神であることを認識するのだ」

ヴィヴェーカーナンダは、精神生活に真剣に取り組むものは、他者の見解に関してこれを否定しようなどとせず、また脅威を感じることもなく、ただ神を誠実に愛するべきだ、純粹さと誠意をもって神を愛すれば、いかに違った観点を持っていても、すべての者は同一の大いなる真実に到達するのだ、と語りました。

## グローバルゼーション

科学技術の発展のおかげで、世界は小さくなり、あらゆる社会が多様化したように見えます。また、相互依存も深

まっています。このことは大いなる恵みであり、仏陀の無常観や縁起という思想を補強するものでもあり、ヴェーダーンタの教えにも通じています。

ヴィヴェーカーナンダがよく指摘したように、仏陀はヴェーダーンタの偉大なる教師の一人でした。無常の中心に人間の真の自己、アートマン、精神の真実があります。すべての人間はアートマン、すなわち誕生も死もない、自由で純粋な存在なのです。これを心にとめておけば、グローバル化の恩恵を、身の回りの出来事に煩わされずに享受することができます。

## ナショナルリズム

私たちは、ヴィヴェーカーナンダの教えから、世界全体への愛と愛国心は矛盾するものではないと学びました。スワミー・ヴィヴェーカーナンダは、インドではよく「愛国的聖人」と称されます。スワミーは故郷を熱烈に愛しながら、誰よりも故郷の欠点を深く認識していました。インドへの限りない愛を抱きながら、世界全体にも同様の愛を注ぎました。

スワミーは、日本人は理想的な愛国心をもっていると考えていました。日本人ほど愛国的で芸術的な民族は他に居ない、日本の偉大さは、日本人が自分に対して誠実であることと、国を愛

していることから生まれるのだ、とインドの同胞に語りました。

「日本人の持つ社会的道徳と政治的道徳を身につければ、彼らのように偉大になれる。日本人は国のためにすべてを捧げる覚悟をもって、偉大な国民となったのだ」

日本には、守るべき素晴らしい遺産と伝統があります。皆さんには力と真実に満ちたスワミー・ヴィヴェーカーナンダの教えを深く学んで欲しいと思います。私たちがより良き人間となり、世界がより良い世界になるよう、スワミーの教えが我々を導いて下さいますように。

## スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心 生誕 150 周年記念セミナー・展示会

(2014年3月26日 東京・インド大使館) セミナーでのスピーチ

## 「ヴィヴェーカーナンダのヒューマニズム」

平野久仁子博士

〔1〕はじめに

ワドワ大使閣下、スワミー・ティヤガーナンダジ・マハーラージ、スワミー・メダサーナンダジ・マハーラージ、岡倉登志（たかし）先生、富澤かな先生、聴衆の皆様、本日はこのよう

な記念すべきセミナーで発表させていただき、大変光栄に存じます。私は現在、上智大学アジア文化研究所の共同研究所員として、スワミー・ヴィヴェーカーナンダの思想について研究しております。また、パドマ・ヨーガ・アシュラムにて、ヨーガの実践指導にも携わっております。



30年以上も前、私はまだ中学生の頃でしたが、母とともに、逗子にある日本ヴェーダーンタ協会を初めて訪れました。当時いらしたインド人のお坊様、何もかもが初めての私にはとても珍しく感じ、幾分緊張しましたが、そのお坊様と幾人かの日本人と一緒に葉山を散歩したことが今でも大変懐かしく思い出されます。このことをきっかけに、私は少しずつスワミー・ヴィヴェーカーナンダの思想や実践に引き寄せられていきました。

また、東京芸術大学、その前身はかつて岡倉天心が学長をつとめた東京美術学校ですが、その御膝元である上野の近くに当時住んでおりました、幼いこ

ろには、その芸大の美術学部の日本画の学生であった叔父に連れられてキャンパスに時々遊びに行ったりしておりました。そうしたこともあって、岡倉天心先生のお名前を随分と耳にしておりました。あれから40年たった今、このような場でスピーチをさせていただいているわけですが、スワミー・ヴィヴェーカーナンダと岡倉天心という二人の偉大な人物に私自身、少なからぬご縁があったのだなあと改めて感じております。

## 〔2〕 ヴィヴェーカーナンダ生誕 150周年祭閉会プログラムに参加して

さて、今年1月25日から30日にかけて、スワミー・メダサーナンダジ・マハーラージのご引率のもと、私は、インド・コルカタのベルール・マトで開催されたスワミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕 150周年祭閉会プログラムに参加させていただきました。この6日間のプログラムにはインド国内外から13000人の参加者があったとお聞きしております。日本からの参加者は12名で、海外からの参加者の中では最も多かったそうです。ベルール・マトの本堂の脇に設営された会場は大勢の人々であふれ、大変圧倒されました。この閉会プログラムのインターナショナル・セミナーでは、ヒンドゥー教のみならず、イスラーム教、シク教、キリスト教、仏教、ジャイナ教などの各



宗教の祈りが行なわれ、それぞれの立場からヴィヴェーカーナンダの思想や宗教の調和について、スピーチがなされていたことは、とても印象深く、スワミー・ヴィヴェーカーナンダが唱えた宗教の対話、調和という理念をまさに体現する場であったように感じました。

また、このベルール・マトにおいては、シュリー・ラーマクリシュナ、ホーリー・マザー、そしてスワミー・ヴィヴェーカーナンダをそれぞれ祀る寺院などもお参りしました。寺院では、五体投地をして深く礼拝し、また、瞑想する多くのインドの方々の姿を目の当たりにしました。また、本堂のラーマクリシュナ寺院で夕方に行なわれるアラティと呼ばれるお祈りの時間にも参加しましたが、あふれんばかりの大勢の人による讃歌は迫力がありました。このようなさまざまな祈りの姿を見て、私にとっては今回で4回目のベルール・マトへの訪問でしたが、改めて大きな感動を覚えました。

### 〔3〕惹きつけられるものとしてのヒューマニズム

このように、今日に至るまで、シュリー・ラーマクリシュナ、シュリー・サラダーデヴィー、そしてスワミー・ヴィヴェーカーナンダの理念を受けつぎ、宗教伝道のみならず、奉仕活動や

教育、医療等の社会活動に従事してこられたラーマクリシュナ・ミッションの修行僧の方々のご尽力に対して心より尊敬の念を抱くとともに、改めて多くの人々がその思想や活動に惹きつけられる理由とは何であろうかと考えました。その答えの一つとして、本日の私のスピーチのテーマであります、ラーマクリシュナ・ミッションの活動の根底に脈々と流れる「ヴィヴェーカーナンダのヒューマニズム」という精神ではないかと考えます。

では、それは、一体どのようなものだったのでしょうか。私は、簡潔に申せば、貧富の差や、カースト、男女差等を超越した、わけ隔てのない、一人一人に対する愛ではないかと思えます。ヴィヴェーカーナンダは愛について、「愛は人と人の間の、アーリヤ人と西洋人の間の、バラモンと下層民の間の区別を、そして男女の間の区別さえもなくすのだ。愛は全世界を自分自身の家にしてしまうのだ。」[LSV: 224]というふうに手紙に記しています。

とりわけ社会的弱者ともいうべき人々に対するヴィヴェーカーナンダの憐憫の情には深いものがあったように思います。そのような彼の想いは、彼が残した手紙の数々から読み取ることができます。たとえば、ヴィヴェーカーナンダは、アメリカから弟子に宛てて送った手紙に、祖国の貧しい人々に

思いを馳せながら、率直な気持ちを次のように記しています。「誰が彼らを感じることができるのか。彼らは光や教育を見出すことができない。誰が彼らに光をもたらすのか。誰が戸口から戸口へと旅をし、彼らに教育を授けるのか。彼らを君の神とせよ。彼らを思い、彼らのために、絶え間なく祈りなさい」[LSV: 147]。また、別の手紙には、「私は、寡婦の涙をぬぐうことができず、また孤児の口にパンのかけらを与えることのできない神や宗教を信じない」[LSV: 169] とさえ記しています。

さらに、ヴィヴェーカーナンダは「もし君が善を欲するならば、儀式を投げ出し、生きている神、人なる神——人間という形をまとった生きもの——を礼拝せよ。なぜなら神は普遍的な表れであり、我々人間は神の個別の表れなのだから」[LSV: 109] と記しています。

このようなヴィヴェーカーナンダのヒューマニズムは、師ラーマクリシュナの教えや彼が学んだ西洋やインド思想のみならず、彼自身のインド及び西洋での体験が大きく影響を及ぼしているものと考えられます。

#### 〔4〕ヴィヴェーカーナンダにおける ブッダ

こうしたヴィヴェーカーナンダのヒューマニズムを考えるにあたり、彼の

ブッダ観、即ち、彼のブッダに対する考えも考慮に入れる必要があると思います。

ヴィヴェーカーナンダは幼い頃にブッダのヴィジョンを見たという逸話が残っています。またヴィヴェーカーナンダは、渡米前、ブッダが悟りを開いたブッダガヤーにも巡礼し、瞑想をして、ブッダの慈しみを思い感銘を受けたことや、『ダンマパダ』や『スッタニパータ』などの原始仏教の文献なども読んでいたことが手紙などから伺われます。講演や手紙の中でもブッダについて度々言及しており、ブッダに対して深い尊敬の念を持っていたことが伺われます。とりわけ、1893年アメリカ・シカゴで開催された万国宗教会議に参加するために渡米する際に、日本に立ち寄ったヴィヴェーカーナンダは、多くの寺院を見たことを手紙に記していますが、極東にも及んだ仏教の伝播の力、影響力の大きさを感じたにちがいません。後に、ヴィヴェーカーナンダはカルカッタでの講演でも次のように語っています。「アジアの東部を旅していたとき、一つのことをとりわけ私の心を打った。それは東アジア地域におけるインドの霊的な思想の普及である」[CWSV, Vol. 3: 440]。彼のこのような経験は、彼のブッダや仏教に対する考えをも深める要因となったことでしょう。

では、ヴィヴェーカーナンダはブッダをどのように捉えていたのでしょうか。ヴィヴェーカーナンダは、「絶対者と顕現 (The absolute and religion)」という、イギリス・ロンドンでの講演で、「二元論的な神をまったく求めなかった人、そして無神論者だとか唯物論者だとか呼ばれてきた人、しかしながら一匹のあわれな山羊のために自分の命を捨てることをいとわなかった人、それこそが偉大なブッダだったのだ」[CWSV, Vol. 2: 143]と語っています。そして、この同じ講演の中で、ヴィヴェーカーナンダは、ヴェーダーンタ哲学者のシャンカラと対比しつつ、ブッダについて次のようにも述べています。「ブッダには、万人に通じる偉大なハートと無限の忍耐力があり、宗教を実践的なものとし、ひとりひとりのドアへともたらしたのです」[CWSV, Vol. 2: 140]。こうした発言から、ヴィヴェーカーナンダはブッダの教えの中に、「生きとし生けるものに対する慈しみ」と「それを実践すること」の大切さを見出しているように私は思います。

原始仏典の『スッタニパータ』には、「一切の生きとし生けるものよ、幸福であれ、安泰であれ、安楽であれ。」という記述がありますが、こうした他者の幸せを祈る、慈しみの心ともいえるべきものを、ヴィヴェーカーナンダはブッダの「ハート」と表現したのではないのでしょうか。

インド哲学の泰斗であられた中村元博士は、「仏教の理想は〈慈悲〉であるが、人々に対する温かな思いやりというものは、単に心のなかで思っているだけでは慈悲にならない。それは実際の行為、奉仕の行に具現されなければならない。」「[中村 2006: 20-21]と述べています。ヴィヴェーカーナンダは奉仕の行について、ブッダの「ハート」をヴェーダーンタの思想と融合し、人を神のあらわれとして礼拝しながら奉仕するという、より一体感を持つ、積極的な理念を打ち出したと言えましょう。

#### 〔5〕女性に対するヒューマニズム

加えて、ヴィヴェーカーナンダのヒューマニズムは、先の手紙にも見出されたように、女性に対しても大きく向けられました。彼は手紙に「女性の状態が改善されることなく、世界の人々の福利がもたらされることは有りえないだろう」[LSV:201]と記しています。彼の理想は、尼僧院や女子のための学校の設立へと結実しました。

今回の私たちのインド・コルカタの旅では、1898年に設立されたラーマクリシュナ・サラダ・ミッション・シスター・ニヴェーディター・スクールも訪れました。そこでは、1年生から10年生（プライマリー・スクールとセカンダリー・スクール）までの女子学生が

学んでいます。私たちはいくつかのクラスに立ち寄り、尼僧や女性教師の指導のもとに女子学生たちが熱心に勉強する様子を見学しました。ちょうど下校時刻になり、学生たちは校庭でお祈りの歌やインド国歌を唄っていました。それを見ていた私たちは、学生たちが歌い終わった後、日本の唱歌「ふるさと」を唄いました。すると、その後に学生さんたちはまた歌を唄ってくれました。このように私たちは歌で交流をしました。学生さんたちと一緒に写真を撮りましたが、そんな時ずっと私と手を握っていた学生、また、小さな折り紙を私にくれた学生もいて、ほんのひとときのことでしたが、心あたたまる、とても忘れられない思い出となりました。学生さん一人一人が、学問を広く学び、立派な女性として、人間として、家庭や社会においても末永く活躍して行ってほしい、と心から願ったものでした。

#### 〔6〕おわりに

ヴィヴェーカーナンダの教えには、慈しみの心が基盤となったヒューマニズムだけでなく、それを実行するという彼の強さがあると思います。それゆえ、多くの人が彼の教えに魅力を感じるのかもしれませんが。

この度のベルール・マトでのヴィヴェーカーナンダ生誕 150 周年祭閉会プロ

グラムのインターナショナル・セミナー、実は、今から 2 か月前である 1 月 20 日にご逝去されました奈良毅東京外国語大学名誉教授の論文を代読させていただく役割をもって行って参りました。先生にはベンガルを、インドを深く愛し、ベンガル語のみならずベンガル文化の奥深さを教えていただきました。くしくも、そうした先生のメッセージをインドの人々に直接お伝えさせていただく機会をいただき、また本日このように大変貴重な場でまたお話させていただいたことに、心より感謝申し上げますとともに、この場をお借りする形にもなりますが、奈良先生のご冥福を改めてお祈り申し上げる次第です。

ヴィヴェーカーナンダのヒューマニズム、すなわち、一人一人に対するわけ隔てのない慈しみの心が、これからも世界中に広く伝えられ、実践されていくことをお祈りしながら、私のスピーチを終わらせていただきます。ご静聴、有難うございました。

#### (参考文献)

*Complete Works of Swami Vivekananda (CWSV)* , Vol.2, 1999, Calcutta: Advaita Asrama.

*Complete Works of Swami Vivekananda (CWSV)* , Vol.3, 2001, Calcutta: Advaita Asrama.

*Letters of Swami Vivekananda (LSV)* ,

2002, Kolkata: Advaita Ashrama.

中村元、2006、『原始仏教の社会思想』  
〈中村元選集〔決定版〕第18巻〉、春秋社。）



## 2014年4月の返子例会

4月20日（日）午前11時、日本ヴェーダーンタ協会の返子本部本館にて4月の返子例会が開催されました。スワミー・メーダサーナンダ（マハーラージ）は、初めにヴェーダの平和の祈りを詠唱し、次に、この日（「復活の主日」「復活日」など。英Easter Sunday）がキリスト教徒にとって重要な日であることと、復活日が非常におめでたいとされる理由について説明しました。

「先週の金曜日は『聖金曜日（Good Friday）』と呼ばれる日で、この日にキリストは磔刑となり十字架にかけられました。土曜日、信者らは悲しみにうちひしがれながらも、期待を胸に抱いて待っていました。そして日曜日、キリストは復活しました。それが今日なのです。この出来事を象徴的に解釈すると、この世に再び生まれるには死な

なければならないということです。もちろん、自殺が必要だという意味ではありません。霊的に生まれるためには、心において死ななければならないという意味です。つまり、「死ぬ前に死ぬ、ということです」そしてマハーラージは、アルゼンチン出身でカトリックの留学生の方にお話し、『新約聖書』の『ヨハネの福音書』の中でこれに関連する箇所を読んでもいただきました。

また、マハーラージは、シュリー・ラーマクリシュナが肉体をお捨てになった時にホーリー・マザーが見たビジョンについてお話ししました。マザーが悲しんでいらつしゃると、ラーマクリシュナがビジョンの中に現れて、自分は「一つの部屋から別の部屋へ」と移動しただけだから、ヒन्दゥー教が寡婦に対して定めている服装や行動の厳格なしきたりに従う必要はない、と仰ったそうです。

その後、マハーラージは「カルマ・ヨーガの実践法」をテーマに講話を行いました。講話が終わると、皆で昼食のプラサードをおいしくいただきました。

午後の部では、協会の副会長として、また友人として、協会を長年支えてくださった故・奈良毅先生を偲ぶ特別プログラムが行われました。参加者全員で黙想を捧げ、奈良先生のご冥福をお祈りしました。

## 忘れられない物語

### プラスチックの花、プラスチックの心

崇山行願大禅師がニューヨーク国際禅センター（International Zen Center of New York）に滞在中、ある日曜日に大きな式典が催された。食べ物や贈り物でいっぱいショッピングバッグを携えて、たくさんの韓国人女性がやって来た。ある女性が、プラスチックでできた大きな造花の花束を大禅師のアメリカ人弟子に微笑みながら進呈した。弟子はすぐさまその花束を山積みになったコートの下に隠したが、別の女性がそれを見つけ、嬉々として「戒律の間（Dharma Room）」に入って行き祭壇の花瓶に活けた。

弟子は仰天して大禅師のところに行き、「あのプラスチックの造花はひどいです。祭壇から下ろしてどこかに捨ててもいいでしょうか」と尋ねた。

「お前の心がプラスチックなのだ。だから、万物がプラスチックなのだ」と大禅師はお答えになった。「どういう意味でしょうか。」弟子は尋ねた。

大禅師は仰った。「仏陀は、『人の心が純粹ならば万物も汚れのないものになり、心が墮落していると万物も汚れたものになる』と説いていらっしゃる。私たちは毎日不幸な人々に会う。心が

悲しみでいっぱいの方は、見るもの、聞くもの、嗅ぐもの、味わうもの、触れるもの全てが悲しみでいっぱいであり、万物も悲しみに満ち溢れたものになる。心が満ち足りていると、万物も満ち足りる。お前が何かを強く望むと、それに囚われるようになる。何かを拒絶しても、やはりそれに囚われる。何かに囚われることは、心の中の妨げとなる。つまり、『プラスチックのものが嫌いだ』というのは『プラスチックのものが好きだ』というのと同じだ。どちらも執着なのだ」

「お前は造花が嫌いなので、心が作り物になってしまい、万物も作り物になったのだ。執着を捨てなさい。そうすればお前を妨げるものはなくなる。花がプラスチックの造花か本物か、祭壇の上にあるのかゴミ箱の中か、気に留めなくなるだろう。これが囚われのない真の自由だ。造花は造花であるだけで、本物の花は本物の花であるだけだ。名や形に囚われてはいけない」

弟子は言った。「しかし、私たちは誰にとっても美しい禅センターをここに作ろうとしているんです。気にしないわけにはいきません。あの造花のせいで部屋全体が台無しになる」

大禅師は仰った。「もし誰かが本物の花を仏陀に捧げたら、仏陀はお喜びになる。造花が好きな人が造花を仏陀に

捧げても、仏陀は同様にお喜びになる。仏陀は名前や形に囚われないからだ。花が本物か造花かということは気にせず、贈ってくれた人の心を気にかけるだけだ。造花を捧げた先ほどの女性たちはとても純粋な心をお持ちだ。彼女たちの行いは菩薩そのものだ。お前の心は造花を拒絶しているのだ。万物を善と悪、美と醜に分けてしまっているのだ。すなわち、お前の行いは菩薩の行いとは違う。仏陀の御心を持つようにしなさい。そうすれば邪念はなくなる。本物の花は良い、プラスチックの花も良い。この心は大海のようなものだ。ハドソン川もチャールズ川も、黄河、中国の水、アメリカの水、きれいな水、汚れた水、塩辛い水、澄んだ水など、あらゆる水が注ぎ込む。海は『あなたの水は汚れているから私に流れ込んではいけない』とは言わない。全ての水を受け入れ、すべての水を混ぜ合わせ、全てが海になる。だから、お前が仏陀の御心を持ち続けることができれば、お前の心は大海のようになるのだ。これこそ、悟りの大海だ」

弟子は深々とお辞儀をした。

(崇山行願 (スンサン ヘンウォン、Seung Sahn) (1927-2004)

『仏陀に灰を払い落とすと一崇山行願大禅師による禅仏教の教え (Dropping Ashes on the Buddha: The Teachings of Zen Master Seung Sahn)』より

## 今月の思想

「誰もが皆、他者に共感を寄せることができると思う。ただ、それを表すだけの勇気がないのだ」

(マヤ・アンジェロウ。活動家、詩人、歌手、女優)

発行：日本ヴェーダーンタ協会

249-0001 神奈川県逗子市久木 4-18-1

Tel: 046-873-0428

Fax: 046-873-0592

Website: <http://www.vedanta.jp>

Email: [info@vedanta.jp](mailto:info@vedanta.jp)